

左翼は、2月24～25日にウクライナとの連帯行動に参加しました

2023年3月5日

ウクライナとの連帯行動は、左翼組織の参加を得て、世界の大きな首都で開催されました。2月24日から25日にかけて、数千人がデモを行い、1年以上にわたって行われてきた本格的なロシアの侵略を非難しました。黄青は確実に反帝闘争の象徴の一つになりつつある。



最も注目すべきパフォーマンスの1つはドイツで行われました。ドイツでは現在、親ロシアのプロパガンダに対抗する緊急の必要性があります。ベルリンの「ウクライナデモでの左派ブロック」の写真で、左翼は、ロシアの占領下では平和はあり得ないと強調している。



ーデン)とブリュッセル(ベルギー)でも、友人の参加による強力なストリートデモが行われました。

ロンドンでの2月25日の抗議行動は、ロシア帝国主義を正当化する疑似平和主義者との対立によって特徴づけられた。侵略者に対してウクライナを武装させることを要求する大声での反対行進は、「ウクライナ連帯キャンペーン」ネットワークによって組織されました。ここでは、ベルリンと同様に、地元の「社会運動」の活動家が直接参加しました。マルメ(スウェーデン)とブリュッセル(ベルギー)でも、友人の参加による強力なストリートデモが行われました。



5,000人以上の人々がパリ(フランス)でのウクライナの抵抗運動を支持するために出動し、労働組合ソリディアス、シレプス共同体、人権活動家、およびウクライナ国民に政治的および人道的支援を提供してきたその他のイニシアチブの呼びかけに応えました。長い間。行動はフランスの30都市で行われ、政府の反社会的措置に反対して戦っているすべての主要な労働組合の活動家が参加しました。

ヨーロッパ以外では、ウクライナと連帯する左派が、ニュージーランドや香港から米国やブラジルまで、世界中のイベントに参加しました。



それとは別に、東京での行動に注目してみましよう。そこでは、日本学生自治会連合会（全学連）が、ウクライナとの連帯のグローバルウィークの一環として街頭に出ました。彼らは、「社会運動」チームと侵略者に対する抵抗を鼓舞するウクライナ国民全体に敬意を表した。

「社会運動」は、ますます多くの左派が、ウクライナに対する侵略を、国際平和を脅かす血なまぐさい民族的抑圧行為と見なしているという

事実を歓迎します。連帯支援は、ウクライナができるだけ早く勝利を収め、社会的に公正な再建に移行するのに役立ちます。